

組織目標管理シート

年度	令和5年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標		作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	経営管理課			評価日	令和6年3月27日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	事業基盤の強化に継続して取り組むことにより、必要な財源の確保を図り、安定的な事業運営を行います。	行財2-1-①	経営審議会における意見聴取	実施	実施	・財政収支計画の策定	アセットマネジメントの成果を踏まえた財政収支計画を策定します。	○	今後の財政収支計画において、令和7年度における資金不足が想定されたことから、経営審議会に水道料金改定を諮問し、令和6年2月議会において、給水条例の改正を行いました。	料金改定後の財政状況を注視しながら、安定的な事業運営が行えるよう、引き続き、事業基盤の強化に取り組みます。
2	新・マスタープランの進行管理と、次期マスタープランの策定を行います。		所管課評価の取りまとめ	実施	実施	・年度評価の実施	マスタープラン掲載事業の業績評価を実施し、評価内容をホームページ等で公表します。	○	令和4年度の業績評価を実施し、評価内容をホームページで公表しました。また、計画期間が令和7年度からとなる次期マスタープランについて、11月に開催した水道事業経営審議会において「骨子」を報告し、確認を得ました。	進行管理としての年度評価を継続的に実施していきます。また、次期マスタープランについては、令和6年中に原案作成を完了し、議会への報告の後、令和7年1月までにパブリックコメントを実施し、意見等を反映した中で完成させていきます。
			経営審議会における中間報告(素案)	実施	実施	・次期マスタープラン素案の策定	財政収支計画の策定と連動しつつ、掲載事業の選定と各事業における目標を設定し、一覧に取りまとめます。			
3	事故・災害時などの非常時における、迅速かつ的確な応急給水・応急復旧体制を確保します。		局内訓練等の実施回数(回)	2	2	・各種マニュアルに基づく訓練の実施	危機事象対応マニュアル等、事故・災害時に備えた各種マニュアルに基づく訓練等を実施します。	○	令和6年能登半島地震により中止となった訓練もありましたが、局内防災担当者会議における危機事象対応の確認と、新潟市総合防災訓練への参加により目標を達成しました。マニュアルに関しては、令和5年1月の寒波対応等の反省を踏まえ見直しを行いました。また、応急給水体制に関し、災害拠点病院との意見交換を行いました。	地震被災地としての経験を踏まえ、各種訓練内容を見直しながら継続的に実施していきます。より迅速に効率的・効果的な応急給水活動が行えるよう、令和6年能登半島地震で明らかになった課題を含め検討を進めていきます。
			応急給水体制の検討	検討	検討	・災害対応に係るマニュアルの見直し	施設事故や寒波対応の反省を踏まえ、応急給水体制の強化に係る検討を行い、災害対応に係るマニュアルへ反映します。			

組織目標管理シート

年度	令和5年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標		作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	総務課			評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	持続的な事業運営のため、継承すべき専門知識と実務経験を併せ持つ職員育成に取り組みます。	行財1-4-①	一人当たりの平均内部研修実施時間数(時間/人)	14.3	15.3	・水道局職員研修	水道局職員研修基本計画に基づき、階層別や専門別研修などを行います。職場単位でのOff-JTの充実、活性化を行います。	○	職員研修基本計画に基づく研修を予定通り実施するとともに、各所属が積極的に職場内Off-JTを実施したことにより目標を達成することができました。	今後も次世代を担う人材の育成と水道技術の継承を図るため、職員研修基本計画に基づき計画的に研修を進めるとともに、外部講師の招聘や広報活動イベントへの参加、職場内Off-JTを中心とした効果的な人材育成を行っていきます。
2	効率的な施設保全を推進していくため、省エネ設備導入による脱炭素化の推進、ライフサイクルコストの削減を図ります。	行財2-2-②	LED照明器具への取り替え数(灯)	94	56	・省エネ設備の導入	水道局本庁舎の蛍光灯照明器具を計画的にLED照明器具へ取り替えます。	×	今年度LED照明への取り替え工事を予定していた別館において、施工前調査で2階天井部で石綿が検出され、工事を一部中止したことにより、目標を達成出来ませんでした。	石綿を全撤去するには、多額の費用が発生するほか、工事に伴う職員退避が必要であるため、今後の対応を検討するとともに、別館2階の照明については、当面は現行のままとします。
3	職員の健康を保持するため、安全衛生に配慮した施策を実施します。		定期健診精密検査受診率(%)	90.0	85.0%	・精密検査受診の促進	定期健診における要精密検査対象者に対し、精密検査受診を促します。	△	定期健診の精密検査受診率については、対象者80名中68名が受診し、85.0%となり、目標達成には至りませんでした。職場巡視については、全5回実施し、目標を達成しました。	職員が安心して働く環境を整備するために、職員の健康保持と職場の安全衛生に関する施策は重要であると考えています。令和5年度については定期健診精密検査受診率について目標達成には至らなかったものの、目標に近い成果を上げていることから、引き続きこれまでの取り組みを継続し、職員の健康保持と職場の安全衛生推進に取り組んでいきます。
			職場巡視の実施回数(回)	5	5	・安全・衛生環境向上のための職場巡視	安全衛生委員による各職場の安全・衛生環境向上のための職場巡視を行います。			

組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	作成日	令和5年4月1日	
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	経理課	評価日	令和6年3月29日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	職員の意識と能力の向上を図ることにより、適正な会計事務を推進するとともに、支払の迅速化と遅延防止に努めます。	行財1-1-①	研修会の回数(回) ・初任者向け 1回 (階層別研修) ・実務者向け 1回 (会計実務研修)	2	2	・適正な会計事務の推進	研修会等の実施により、適切な会計処理と支払遅延防止に対する職員の意識と能力の向上を図ります。	○	会計事務を担当する職員を対象とした研修会を実施するなど、職員の意識向上に努めました。併せて、支払遅延等の不適切な会計処理の発生を防止することができ、インボイス制度にも適正に対応することができました。	引き続き、局全体の支払い遅延等の不適切な会計処理が発生しないよう、職員の意識と能力の向上を目的とし、研修会を実施します。
2	安全で効率的な資金管理に取り組みます。		運用率(預託金/総資金額)(%以上)	83.5	82.7	・資金管理	総資金額(運用可能金額)が前年度より減少する見通しの一方、支払準備資金を圧縮することは難しい状況にあるため、目標値は実績以上に設定	×	収支見込の精度を上げ、支払準備資金(決済用預金残高)を必要額に抑え運用を行ってきましたが、目標値には達成することができませんでした。	厳しい財政運営の中で、資金運用に努めて参りましたが、資金が減少し、運用効果が今後期待できる状況ではないことから、組織目標とはいたしません。ただし、運用は継続して行います。
3	水道局における適正な入札・契約事務を継続的に実施します。	行財1-1-①	点検・研修会の回数(回) ・点検 2回 ・研修 2回	4	4	・入札・契約事務における適正な運用の継続	各課の契約事務が適切に行われるよう定期的に所管契約事務の点検を行います。また、制度改正等については、市契約担当部署とも情報共有を図り、適正な運用に取り組めるよう研修会を開催します。	○	所管課に対し、適正な契約事務が行われているか、上半期と下半期に各1回点検を実施いたしました。また、契約事務研修だけでなく、主に技術系部門の職員を対象とした工事契約研修会も実施し、局全体における不適切な契約事務の発生はありませんでした。	水道局契約事務の総括部署として、適正な契約事務が行われるよう、各所管における運用状況の定期点検を継続実施します。また、職員スキルの向上を目的として、引き続き、契約事務研修と工事契約研修を実施します。

組織目標管理シート

年度	令和5年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標		作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	営業課			評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	お客さまサービスの向上と業務の効率化を実現するため、デジタル技術の導入に積極的に取り組みます。	行財1-3-②	RPAの試行運用と導入効果の検証	実施		・RPAの導入	定型業務等を自動化することで業務の効率化、省力化を図り、マンパワーを基幹業務に再配分することで、お客さまサービスの向上を目指します。	○	試行運用の対象業務を拡大し、導入効果の検証を行いました。	対象業務の拡大と横展開の検討を進めます。
			スマートメーターの実証実験の実施	実施		・スマートメーターの導入検討	遠隔・自動検針による検針業務の省力化に加え、漏水の早期発見や高齢者の見守りなど新たなサービスの可能性について実証実験を通して検討していきます。		電力会社のネットワークを使用した実証実験を、市内50か所で実施しました。これにより通信の安定性や異常水量等計測時のアラーム機能の稼働状況が確認できました。	電力会社との実証実験と並行して、携帯電話の通信網を利用した実験を実施し、機能や通信状態等の比較、検証を行います。
2	水道事業全体の情報セキュリティの確保のため、業務受託者のセキュリティ対策について指導を強化します。		立入検査の実施団体数	2		・委託先におけるセキュリティ対策の実施状況の確認	個人情報を取り扱う業務受託者に対し、使用機器などのセキュリティ対策、情報資産の取扱状況や管理体制などについて、立入検査を実施し、必要に応じて改善指導を行います。	○	2事業者に対する立入検査を実施し、情報資産の取扱手法や管理体制などについて改善を図りました。	他の発注課に展開できるよう、基本的な検査要領(チェックリスト)等を整備します。
3	災害や大規模事故発生時ににおいて急増するお客さまからの入電に対応し、かつ適切な情報が提供できるよう、コールセンターの災害対応力を強化します。		災害対応訓練の実施	実施		・コールセンター(受託者)との災害対応訓練の実施	毎年度、状況を付与しての災害対応訓練を実施します。今年度は寒波による水道管の凍結、破裂多発時を想定した訓練を実施し、マニュアル等の点検を行います。	○	寒波による入電数の急増に対応できるよう、受託者側の県外拠点との分散受電体制を構築し、立ち上げ訓練を実施しました。	分散受電体制について、震災や大規模事故など他の事象にも対応できるよう、必要に応じた調整を行います。

組織目標管理シート

年度	令和5年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	技術管理室			評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	事故や災害に強い水道施設の構築に向け、工事の品質確保の一環として、総合評価方式を適正に実施します。	政策15-2-②	試行割合(%)	65.0	67.9	・総合評価方式の実施	3,000万円以上の一般競争入札案件に対し、総合評価方式を実施することにより、工事の品質確保を図ります。	○	総合評価方式を対象案件に適切に実施し、工事品質の確保に努めました。 工事成績評定平均点は当年度81.0点と高水準を達成していることから、引き続き総合評価方式の適切な実施に努めます。	
2	工事の品質確保の一環として、工事点検等の実施を通じ、適切な指導・育成を行います。	政策15-2-②	工事点検実施率(%)	30.0	29.8	・工事点検、中間技術検査の実施	当該年度工事(250万円以上)に対し、工事点検等実施することにより、工事の品質確保を図ります。	×	対象工事件数218件に対し、工事点検を65件実施し、実施率は29.8%となりました。概ね目標を達成しています。	引き続き工事点検を実施し、適切な指導により、工事の品質確保に努めます。
3	技術系職員向け研修を実施し、職員の技術能力向上を目指します。	行財1-4-①	内部研修回数(回)	2	2	・積算照査研修、工事成績採点研修の実施	設計者を対象に設計指針を基に違算事例を交え研修を実施し、設計者の理解を深めることで積算照査の精度の向上を図ります。また、成績採点のばらつきをなくすための研修を実施し、適正な工事評定が行えるように取り組みます。	○	設計者、工事成績採点者を対象とし、「積算照査」及び「工事成績採点」を専門別研修にて実施しました。 受講者に対し、より一層の理解を深めてもらえるように研修内容の見直しを図る他、研修対象者や研修項目についても検討し適切に研修を実施します。	

組織目標管理シート

年度	令和5年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	中央料金事務所		評価日	令和6年3月25日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)			
1	お客さまと直接関わる業務の受託者と課題を共有し、円滑な連携体制を築きます。		研修会開催回数(回)	4	4	・受託者との研修会の開催	業務の受託者と水道事業全般に係る研修会を実施し、円滑な連携体制の構築に取り組みます。	○	委託業務遂行に関連のある題材での研修を4回実施し、目標を達成しました。 今後も受託者と課題を共有しながら円滑な連携体制を強化し、お客さまサービスの向上に努めます。
2	災害時の応急給水活動を迅速に行えるようにします。		応急給水訓練の実施回数(回)	4	4	・給水訓練の実施	所属職員全てが拠点給水所設置可能者となるよう、より実践的な応急給水訓練を実施します。また、災害協定者等との合同応急給水訓練も実施し、迅速な応急給水活動を行えるよう取り組みます。	○	計画どおりに応急給水訓練を実施し、実施回数および、拠点給水所設営可能者の割合を確保し、目標を達成しました。 このような訓練は繰り返し実施することが重要なことから、基本的な内容は踏襲しながら今後も継続して実施します。
			拠点給水所設営可能者の割合(%)	100.0	100.0				
3	高度化・複雑多様化する行政課題を市民の視点で考え、解決することができる職員を育成します。また、急激に変化する経済社会状況や将来起こりうる課題に対応できる職員育成に取り組みます。	行財1-4-①	所属内研修アンケートの平均理解度(%)	90.0	96.7	・職員所属内研修の実施	料金事務所職員として必要とされるスキルをテーマとした所属内研修を実施し、職員の意識や能力の向上に取り組みます。	○	研修後の理解度測定での平均理解度は96.7%となり、目標を達成しました。 今後も職員の意識改革と業務受託者の意識醸成を図るため、局内外を問わない積極的な研修参加と計画を実施していきます。

組織目標管理シート

年度	令和5年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標		作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	秋葉料金事務所			評価日	令和6年3月25日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)			
1	お客さまと直接関わる業務の受託者と課題を共有し、円滑な連携体制を築きます。		研修会開催回数(回)	4	4	受託者との研修会の開催	業務の受託者と水道事業全般に係る研修会を実施し、円滑な連携体制の構築に取り組みます。	○	委託業務遂行に関連のある題材での研修を4回実施し、目標を達成しました。 今後も受託者と課題を共有しながら円滑な連携体制を強化し、お客さまサービスの向上に努めます。
2	災害時の応急給水活動を迅速に行えるようにします。		応急給水訓練の実施回数(回)	4	4	給水訓練の実施	所属職員全てが拠点給水所設置可能者となるよう、より実践的な応急給水訓練を実施します。また、災害協定者等との合同応急給水訓練も実施し、迅速な応急給水活動を行えるよう取り組みます。	○	計画どおりに応急給水訓練を実施し、実施回数および、拠点給水所設営可能者の割合を確保し、目標を達成しました。 このような訓練は繰り返し実施することが重要なことから、基本的な内容は踏襲しながら今後も継続して実施します。
			拠点給水所設営可能者の割合(%)	100.0	100.0				
3	高度化・複雑多様化する行政課題を市民の視点で考え、解決することができる職員を育成します。また、急激に変化する経済社会状況や将来起こりうる課題に対応できる職員育成に取り組みます。	行財1-4-①	所属内研修アンケートの平均理解度(%)	90.0	99.2	職員所属内研修の実施	料金事務所職員として必要とされるスキルをテーマとした所属内研修を実施し、職員の意識や能力の向上に取り組みます。	○	研修後の理解度測定での平均理解度は99.2%となり、目標を達成しました。 今後も職員の意識改革と業務受託者の意識醸成を図るため、局内外を問わない積極的な研修参加と計画を実施していきます。

組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	計画整備課	評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	浄配水施設整備に併せ、効率的に浄配水施設等の耐震化を進めます。	政策15-2-② 行財2-2-②	耐震化施設数	3施設完了 青山配水池 秋葉配水池 巻取水沈砂池	3施設完了 青山配水池 秋葉配水池 巻取水沈砂池	・浄配水施設の計画的耐震化	新MPでは8施設の耐震補強を計画しています。令和4年度までに5施設が完了し、残り3施設は令和5年度に完了する予定です。 ・青山配水池耐震化(R3~R5) ・秋葉配水池耐震化(R4~R5) ・巻取水場沈砂池耐震化(R5)	○	3施設の耐震化工事はスケジュールとおりに完了しました。これにより新MPで浄配水施設の施設整備にあわせて予定していた8施設全ての耐震補強が終了しました。	次期MPにおいても、継続して浄配水施設の計画的耐震化を進めていきます。
2	老朽化した管路施設の計画的更新とともに、管路施設の耐震化を進めます。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-②	基幹管路の耐震適合率(%)	70.4	70.3	・基幹管路の更新事業の進捗管理	新MPでは事故災害時に影響が大きい基幹管路の更新・耐震化に重点的に取り組んでいます。工事担当課と連携して進捗管理を行います。 ・取組指標R4結果: 69.0%	○	現場状況を反映した詳細設計により、布設延長が若干減少したため、目標値に達していませんが、予定路線の発注が完了し、更新事業は計画通りに進捗しています。	今後も局内担当課と調整を図りながら管路更新事業を着実に進めていきます。
3	老朽化した設備を計画的に更新するとともに、施設規模を適正化します。	政策15-2-① 行財2-2-②	事業進捗率(%) (実績累計出来高/計画事業費)	61.4	70.7	・青山浄水場施設整備事業(R3~R6)	3年目となる青山浄水場施設整備事業では、引き続き老朽化設備の更新と施設の耐震化を進め、令和5年度は受変電設備や配水ポンプ設備の切替が完了する予定です。 ・取組指標R4結果: 25.9%	△	受変電設備や配水ポンプ設備が令和6年1月末に完了するなど、スケジュールに沿って事業を進めています。	整備事業の最終となる次年度も施工業者や浄水場と工程調整を図りながら、事業スケジュールに沿って工事進捗管理を適切に実施していきます。
		政策15-2-① 行財2-2-②	事業進捗率(%) (実績累計出来高/計画事業費)	56.3	36.1	・巻取水場施設整備事業(R4~R6)	2年目となる巻取水場施設整備事業では、令和5年度に自家発電設備、管理館改修、沈砂池耐震化が完了する予定です。その他機電設備は機器製作を進めます。 ・取組指標R4結果: 1.4%		機電設備は、コロナ緩和に伴う社会的需要の急増により、ケーブル等の入手が困難となったため、予定していた機器が完成できませんでした。	次年度内での事業完了に向け工事工程を調整して、着実な施工管理を実施します。
		政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-①	中部エリア基本計画策定	基本計画策定に係る業務の完了	基本計画策定に係る業務の完了	・長期的な浄配水施設の規模適正化のための水道施設整備長期構想に基づく基本計画の策定	水道施設整備長期構想に基づく次期MP以降の施設整備計画の策定に向け、中部エリアの施設整備について基本計画の検討を進めます。 ・中部エリア基本計画策定業務(R4~R5)		中間報告会での意見等を踏まえ局内方針を整理し、基本計画を策定しました。	この基本計画に基づいて、次年度に基幹管路更新・整備の基本設計業務に取組むとともに、次期MP以降の施設整備計画を策定します。
4	事業マネジメント力や技術力を持った人材を育成します。	行財1-4-①	課内研修の理解度(%)	90.0	94.5	・課内研修の実施	技術研修3講座を実施します。 ①水道施設計画 ②管路事業計画 ③施設整備事業 ・研修後のアンケート調査により理解度を測定(平均値)	○	技術研修3講座を実施後のアンケート調査により理解度を測定して目標指標を達成しました。	今後も課内業務を通して、積極的に技術研修を実施し、事業マネジメント力や技術力を持った人材を育成します。

組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画における政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	管路第1課	評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)			
1	老朽化に伴う施設の更新に併せて、水需要の減少を踏まえた施設能力のダウンサイジングを図るとともに、更新等費用の確保に努め、効率的な施設による安定給水の確保を図ります。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-②	基幹管路耐震適合延長(m/年)	3,363.0	3,352.8	・基幹管路更新事業	基幹管路について、平成26年度に策定した「基幹管路整備更新実施計画」に基づき、着実な更新・整備を進めます。	○ 指標値は若干目標に達していませんが、設計・施工の段階において、現場状況に応じ延長が増減したもので、目標とした路線の工事発注は、計画通り完了しました。	令和6年度は新・マスタープランの最終年度にあたり、目標の確実な達成に向けて、引き続き適切に発注管理を行います。
2	監督員の資質向上を図り、工事契約の適正な履行と円滑な施工の確保を実現します。	行財1-4-①	監督員研修の理解度(%)	90.0	95.4	・監督員研修の実施	監督員業務に必要な知識、経験を身につけるため、研修を実施します。 ・監督員研修開催 ・研修後のアンケート調査により理解度を測定(平均値)	○ 予定していた研修を実施し、良好な理解度を確認しました。	当課は技術系若手職員が多く、当該研修は大変意義深いことから、今後も研修内容の見直しを行いながら、継続的に実施していきます。
3	職員の職務能力を向上させ、効率的な業務執行と、安全、確実な施工につなげます。	行財1-4-①	課内研修の理解度(%)	90.0	99.4	・課内研修の実施	課内研修の実施により、技術・知識の向上を図ります。 ・①事務研修 ②管路設計計画 ③管路図の読み方 ・研修後のアンケート調査により理解度を測定(平均値)	○ 予定していた研修を実施し、良好な理解度を確認しました。	講師・受講者の相互に学びの機会となる課内研修については、「過度な負担とならない範囲で」という前提を維持しながら、継続的に実施していきます。

組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	管路第2課	評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	強靱な施設の構築により給水を確保します。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-① 行財2-2-②	更新周期越えの配水管の更新延長(m)	6410.0	7267.9	・老朽配水支管更新	漏水事故の未然防止及び安定給水を確保するため、アセットマネジメント手法を取り入れて策定した更新周期に合わせて、老朽化した配水管を計画的に更新します。 ・配水支管の更新(工事発注件数:27本)	○	道路管理者との協議により、当初予算で予定していた27本の工事のうち2本の発注を見送ることとなりましたが、代替えとして当初予定していなかったガス事業者との競合工事5本を行った結果、目標を上回る延長となりました。	引き続き、漏水事故の未然防止及び安定給水を確保するため、アセットマネジメント手法を取り入れて策定した更新周期に合わせ、老朽化した配水管を計画的に更新します。
2	安全な水道水をお客さまに供給し、水質事故を防止します。		指導実施回数(回)	1	1	・指定給水装置工事事業者の技術力向上	安全な水道水を供給するには、施工に携わる指定給水装置工事事業者の技術力向上が不可欠なため、更新手続きでの指導や抜き打ち検査などで指導を強化し、給水装置に起因する水質事故を防止します。 ・指定給水装置工事事業者更新手続きの際、秋葉工事事務所と合同で指導を実施 ・書類検査箇所について、抜き打ちで現地検査を行う。	○	指定給水装置工事事業者の更新手続きの際、更新対象事業者に対し施工上の注意点などについて指導しました。その結果、給水装置に起因する水質事故の発生はありませんでした。 計画に沿った抜き打ち検査を実施し、業者指導に努めました。その結果、給水装置に起因する水質事故の発生もありませんでした。	引き続き、指定給水装置工事事業者の更新手続きの際に、更新対象事業者へ、施工上の注意点などについて指導するとともに、書類検査の中から抜き打ち検査を計画的に実施し、業者指導を行います。これらの取り組みにより、給水装置に起因する水質事故の防止に努めます。
			抜き打ち検査件数(件)	240	240	・給水装置工事の審査及び検査の徹底				
3	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	行財1-4-①	研修の理解度(%)	90.0	93.3	・監督員研修	水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力の向上を実現します。 ・課内研修後のアンケート調査等により理解度を測定(平均値)	○	研修後のアンケートによりそれぞれの理解度を測定した結果、いずれの研修についても、その理解度の平均が目標値を超えることができました。	引き続き、職員のスキルアップを図るため、様々な課内研修を実施します。
				90.0	100	・水理解析研修				
				90.0	92.86	・給水装置研修				
				80.0	91.5	・事務研修				

組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	浄水課	評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	施設の重大事故を防止し、施設の長寿命化を図るため電気・機械設備及び土木施設の維持管理を着実にを行います。	政策15-2-① 行財2-2-②	設備点検実施率(%)	100.0	100.0	電気、機械設備及び土木施設の計画的な点検の実施	計画的な施設・設備機器の点検(法定点検及び自主点検)を行い、重大事故の防止と水道水の安定供給に努めます。 ・設備点検実施率＝設備点検実施数／設備点検の計画回数(法定点検＋自主点検)	○	現状の電気回路の把握や仕組みを改めて職員へ周知徹底し、加えて必要に応じ研修を実施するなどし、事故リスクの低減を図りました。 また、課内職員による検査の実施により、事故防止に係るダブルチェックを行い、対策の実効性を確保しました。	引き続き、次年度以降においても、施設の維持管理や対策を着実に実施し、施設の重大事故ゼロにつなげていきます。
2	職員の事故・災害時対応力と専門技術力の向上のため、各浄水場の特性に合わせた研修や訓練を実施します。	行財1-4-①	研修・訓練における理解度(%)	90.0	94.8	職員研修・訓練の実施	現場対応力とスキル向上を目的とした研修・訓練を実施します。 ・危機管理、施設維持管理、浄水処理、監督員研修等 ・研修後のアンケート調査により、理解度を確認(平均値)	○	事故対応などの危機管理や施設の維持管理に係る研修を予定通り実施し、目標を上回る理解度結果を得ることができました。	引き続き、事故・災害時の対応力と専門技術力の向上に向け、実践的な研修実施に努めます。
3	浄水技術を着実に継承するため、人材育成プログラムを強化し、若手技術者を育成します。	行財1-4-①	スキルマップ習得状況のプロセス確認(段階)	3段階	3段階	「浄水技術者育成計画」に基づく人材の育成	「浄水技術者育成計画」に基づき浄水技術者を育成します。 ・育成責任者と育成者で面談し、スキルマップを使用して習得状況を確認(目標設定、中間、最終の3段階)	○	各浄水場で、育成責任者と育成者でスキルマップを活用した面談と育成委員会会議などを計画どおり実施し、若手技術者の育成を図りました。	今後も「浄水技術者育成計画」に基づき、人材育成を継続します。
4	浄水発生土の有効利用を継続し、廃棄物の減量化を推進します。	政策16-2-①	浄水発生土の有効利用率(%)	100.0	100.0	浄水発生土の有効利用	浄水処理工程で発生する汚泥を建設資材等に全量有効利用することで、環境に配慮します。 ・有効利用率＝有効利用土量／浄水発生土量(天日乾燥後の搬出可能汚泥のうち有効利用した割合)	○	天日乾燥後、搬出可能となった汚泥は、全量、建設改良土やセメント原材料及び園芸用土などの利用目的で販売・譲渡(放射性物質不検出)を行い、有効利用しました。	今後も浄水発生土の全量有効利用を継続します。

組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	水質管理課	評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	安全で良質な水道水を継続的に供給するために水安全計画の充実・適切な運用を行います。		水安全計画の評価実施率(%)	100.0	100	・PDCAサイクルに沿った運用	『安全な水の安定給水』に資するよう、水安全計画にそった水質管理を確実に実施するとともに、水安全計画を構成する各要素の技術的妥当性について確認し、必要に応じて見直しを行います。	○	目標を達成しました。	令和6年度については、妥当性の確認結果等を踏まえ、より活用しやすい内容・構成へ、必要に応じて見直しします。
2	より安全な水道水を提供するため、市独自の目標値を定め管理を徹底します。		農業類の本市独自目標達成率(%) (国の目標値の1/10以下)	100.0	100	・農業類の管理目標値の設定 ・モニタリングの実施 ・粉末活性炭処理 ・結果の評価	より安全な水道水を提供するため、農業及び総トリハロメタン類について、本市が独自に定めた水質基準値等よりも厳しい管理目標値を設定し、重点的な管理を行います。	△	目標を達成しました。	令和6年度については、引き続き重点的な管理を行い、より安全な水道水を供給します。
			総トリハロメタンの本市独自目標達成率(%) (浄水場出口からの流達時間が24時間以内の地点で水質基準値の1/2以下)	100.0	98.6	・総トリハロメタンの管理目標値の設定 ・モニタリングの実施 ・粉末活性炭処理 ・結果の評価				
3	河川水質事故による水道水への被害を防止します。		水道水質に影響を及ぼした回数(回)	0	0	・水質事故時の緊急連絡 ・水道原水の定期的な調査 ・浄水課との連携強化	河川水質事故による水道水への被害を防止するために、関係団体と連携し迅速な情報共有を図ります。	○	目標を達成しました。	令和6年度については、引き続き両水協を中心として、関係団体と連携し迅速な情報共有を図り、水道水質に影響のないよう努めます。
4	職員の職務遂行能力の向上に繋がる研修等を実施します。	行財1-4-①	課内外研修回数(回)	10	13	・分析技術に係る水道GLP教育訓練 ・調査・研究成果の発表	水質管理に係る人材育成として、OJTが効率よく行える環境を整備し、水質管理技術のレベルアップを目指します。くわえて、調査研究を計画的に実施し、その成果を業務へ反映させます。	○	目標を達成しました。	令和6年度については、引き続き分析技術の計画的な習得を進め、教育訓練を着実に実施し、成果を現場に反映できるよう努めます。

組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画における政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	中央工事事務所	評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	配水管漏水事故の縮減のため、老朽配水支管、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にを行います。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-① 行財2-2-②	配水支管更新延長(m)	700.0	720	・小口径老朽管更新 ・配水支管改良	老朽配水支管、漏水の懸念される配水支管及び鉛給水管の計画的な更新を進め、鉛給水管における漏水事故を未然に防止し、水道の安定供給を確保します。	○	老朽配水支管の更新を計画的に実施したことにより、目標値を達成することができました。	今後も配水支管等の更新を計画的に推進し、漏水事故の未然防止に務めます。
2	給水管漏水事故の縮減のため、鉛給水管の更新を確実にを行います。	政策15-2-①	鉛給水管更新件数(件)	420	428	・小口径老朽管更新 ・鉛給水管更新		○	鉛給水管の更新を計画的に実施したことにより、目標値を達成することができました。	今後も鉛給水管の更新を計画的に推進し、漏水事故の未然防止に務めます。
3	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	行財1-4-①	研修の理解度(%)	90.0	95.4	・監督員研修	配水管事故の迅速かつ的確な復旧を行うため、緊急連絡体制の確認を含む想定事故への対応等の実践訓練を実施し、不測の事態に備えます。また、水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力を向上させます。 ・課内研修後のアンケート調査により理解度を判定(平均値)	○	現場実務に直結した研修を実施し目標値を達成することができました。これにより職務遂行能力の向上を図ることができました。	今後も継続的に研修を実施し職員の職務遂行能力の向上を図ります。また、配水管事故の迅速な復旧を行うため、緊急連絡体制の確認を含めた実践訓練を継続的に実施します。
				100.0	100.0	・給水車運転操作研修				
				100.0	100.0	・管路探知、漏水探知研修				
	実施回数(回)	1	1	1	・配水管漏水事故対応訓練			小ブロック注入点直近の漏水を想定した実務対応訓練を実施しました。		

組織目標管理シート

年度	令和5年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	秋葉工事事務所			評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	配水管漏水事故の縮減のため、老朽配水支管、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にを行います。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-① 行財2-2-②	配水支管更新延長(m)	1840.0	1981.8	・老朽配水支管更新 ・配水支管改良 ・小口径老朽管更新 ・重要施設向け配水管の耐震化	漏水事故を未然に防止するため、老朽配水支管等を計画的に更新します。	○ 若干の調整は生じたが、概ね計画に沿った発注をすることができました。	計画的な配水支管の更新に努めます。	
2	安全な水道水をお客さまに供給し、水質事故を防止します。		指導実施回数(回)	1	1	・指定給水装置工事事業者の技術力向上	指定給水装置工事事業者更新手続きでの指導や抜き打ち検査などにより指導を強化し、給水装置に起因する水質事故を防止します。	○ 年間60件の抜き打ち検査を行いました。	指定給水工事事業者の更新手続きに併せて、施工上の注意点についての指導を行いました。	指定給水装置工事事業者更新手続きでの指導を通じて、給水事故に起因する水質事故の防止に努めます。
			抜き打ち検査件数(件)	60	60	・給水装置工事の審査及び検査の徹底			抜き打ち検査に基づく指導を通じて、給水事故に起因する水質事故の防止に努めます。	
3	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	行財1-4-①	研修の理解度(%)	90.0	92.6	・監督員研修	水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力を向上させます。 ・課内研修後のアンケート調査により理解度を判定(平均値)	○	各研修における受講者の理解度は目標指標を達成し、研修の効果を確認することができました。	各研修及び訓練を通じて、職員の職務遂行能力向上に努めます。
				100.0	100.0	・給水車運転操作研修				
				100.0	100.0	・管路漏水探知技術研修				
			実施回数(回)	1	1	・配水管漏水事故対応訓練	訓練を通じて、役割の確認及び問題の洗い出しを行いました。			

組織目標管理シート

年度	令和5年度	(参考) 関連する総合計画における政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	北工事事務所	評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	配水管漏水事故の縮減のため、老朽配水支管、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にを行います。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-① 行財2-2-②	配水支管更新延長(m)	539.0	632.0	・老朽配水支管更新 ・配水支管改良	老朽配水支管、漏水や濁水の懸念される配水支管及び鉛給水管の計画的な更新を進め、給配水管における漏水事故を未然に防止し、水道の安定供給を確保します。	○	計画的に工事を発注し、確実な実施に努めたことにより、目標の更新延長を達成できました。	令和6年度も工事場所における地域特性を踏まえた計画的な発注及び効率的な工事の実施に取り組めます。今後とも引き続き取り組みを強化し、効率的な配水管網の構築に努めていきます。
2	給水管漏水事故の縮減のため、鉛給水管の更新を確実にを行います。	政策15-2-①	鉛給水管更新件数(件)	120	199	・小口径老朽管更新 ・鉛給水管更新		○	鉛給水管更新工事の実施にあたり、関係者との事前調整を確実に行ったことにより、目標を達成することができました。	鉛給水管更新は、鉛給水管数が年々減少していますが、競合する他事業者及び給水装置工事事業者との事前調整を積極的に実施することにより、舗装費用縮減を図り、目標更新件数の達成に努めていきます。
3	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	行財1-4-①	研修の理解度(%)	90.0	95.0	・監督員研修	配水管事故の迅速かつ的確な復旧を行うため、緊急連絡体制の確認を含む想定事故への対応等の実践訓練を実施し、不測の事態に備えます。 また、水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力を向上させます。 課内研修後のアンケート調査等により理解度を測定(平均値)	○	研修テーマの理解度は達成水準を満たし、研修の効果を確認できました。	令和6年度も監督員の資質向上を目標とした研修を予定し、危機事象対応としての配水管漏水事故対応訓練及び給水車運転操作研修等は引き続き研修内容を精査し、職員の要望も踏まえ業務に有効な研修を実施していきます。
				100.0	100.0	・給水車運転操作研修				
				100.0	100.0	・水理解析研修				
			実施回数(回)	1	1	・配水管漏水事故対応訓練				
									事故対応時の情報伝達手段となる情報機器の操作訓練及び、直近に発生した配水管漏水事故対応について検証を行いました。	

組織目標管理シート

年度	令和5年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和5年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	西蒲工事事務所			評価日	令和6年3月31日

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R5目標	R5結果	取組名称(事業名)				概要
1	配水管漏水事故の縮減のため、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にを行います。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-① 行財2-2-②	配水支管更新延長(m)	1065.0	1067.0	・配水支管改良	漏水懸念路線や維持管理困難な配水支管及び鉛給水管について計画的に更新を進め、給配水管における漏水事故を未然に防止することにより、水道の安定供給を確保します。	○	適切に進捗管理を行ったことにより、目標の更新延長を達成しました。	来年度も引き続き漏水懸念路線や維持管理困難な配水管の更新を計画的に進めます。
2	給水管漏水事故の縮減のため、鉛給水管の更新を確実にを行います。	政策15-2-①	鉛給水管更新件数(件)	30	30	・鉛給水管更新		○	積極的に他工事との調整を図ったことにより、目標の鉛管更新件数を達成しました。	ガス工事など競合する工事と積極的に調整を進め鉛管更新を行い、引き続き給水管漏水事故の縮減に努めます。
3	職員の職務遂行能力の向上させ、効率的な業務執行と、安全、確実な施工につなげます。	行財1-4-①	研修の理解度(%)	90.0	100.0	・監督員研修	大規模災害や配水管漏水事故の発生に対し、迅速かつ的確に対応できるよう、訓練を実施し、不測の事態に備えます。また、地域特性に柔軟かつ弾力性を求めた内容にすることで、組織的な対応能力の向上を図ります。 ・課内研修後のアンケート調査等により理解度を判定(平均値)	○	研修後のアンケート結果より理解度の所内平均が目標値を上回り目標を達成しました。	来年度以降も効果的な課内研修を4項目程度予定し、技術の継承と高い技術力の習得に励み、更なる職員のレベルアップを図ります。
				100.0	100.0	・給水車運転操作研修				
				100.0	100.0	・水理解析研修				
	実施回数(回)	1	1	1	・配水管漏水事故対応訓練			○	広範囲の濁水影響を想定し配水管事故対応訓練を実施しました。	